

OFFSET関数

使い方マスターガイド



※当ガイドに従うことで、法令違反がないことを保証する資料ではありません。
※あくまで参考としてご活用いただくことを想定している資料です。実際の制度内容は国の資料等をご確認ください。

OFFSET関数の「イメージ」をつかむ

OFFSET関数の「イメージ」をつかむ

OFFSET関数は、「基準となるセル」から出発して、「地図」のように移動し、指定した広さの範囲を取得する関数です。

`=OFFSET(基準, 行数, 列数, [高さ], [幅])`

イメージ図：

1. スタート地点（基準）に立つ。
2. 縦・横（行数・列数）に移動する。
3. その場所からエリア（高さ・幅）を広げる。

 **ポイント：** 単一のセルだけでなく、「セル範囲（エリア）の参照」も返せるのが最大の特徴です。
セル参照を引数とする他の関数と組み合わせ、動的な集計範囲の指定時に真価を発揮します。

SUMなど

【保存版】5つの引数 完全理解表

【保存版】5つの引数 完全理解表

引数が多いのが難点ですが、前半は「移動」、後半は「広さ」と分けて覚えると簡単です。

分類	引数	内容	設定例
スタート	① 基準	出発点となるセル	A1
移動(座標)	② 行数	下に何個動くか（マイナスなら上）	1（1つ下へ）
	③ 列数	右に何個動くか（マイナスなら左）	2（2つ右へ）
広げる(範囲)	④ [高さ]	何行分のデータにするか	5（5行分）
	⑤ [幅]	何列分のデータにするか	1（1列分）

※④と⑤を省略すると、基準セルと同じ大きさ（1×1）、つまり単一セルを参照します。

【実践①】

データが増えても「自動で広がる」合計

【実践①】 データが増えても「自動で広がる」合計

通常、SUM関数で `SUM(A1:A10)` と指定すると、データが11行目に増えた時に数式の修正が必要です。OFFSET関数を使えば、データの増減に合わせて自動で範囲が伸び縮みする最強の数式が作れます。

数式： `=SUM(OFFSET(A1,0,0,COUNTA(A:A),1))`

解説：

- 基準： `A1`
- 移動： 動かない (0,0)
- 高さ： `COUNTA(A:A)` ← ここが味噌！
 - ・ A列に入力されているデータの個数（例：10個）を数え、それを「高さ」にします。
 - ・ データが1個増えれば、高さも自動で「11」になり、集計範囲が広がります。

【実践②】 「直近3ヶ月」だけを常に集計する

【実践②】 「直近3ヶ月」だけを常に集計する

毎月データが追加される表で、常に「最新の3件」だけを合計したい場合にもOFFSET関数が活躍します。

シナリオ： A列に毎月の売上が追記されていく。一番下のデータから、上に向かって3つ分を合計したい。

数式： `=SUM(OFFSET(A1, COUNTA(A:A)-3, 0, 3, 1))`

解説：

1. 行数（移動）： `COUNTA(A:A)-3`
全データの個数から3を引いた位置（＝最新3ヶ月の開始位置）まで一気に下へ移動します。
2. 高さ（範囲）： `3`
そこから3行分を範囲として取得します。

→ これで、来月データが増えても、自動的に「新しい直近3ヶ月」が計算されます。

【免責】

※当資料に従うことで、法令違反がないことを保証する資料ではありません。

※あくまで参考としてご活用いただくことを想定している資料です。また当資料は、公開日時点の内容となっております。最新の情報、実際の制度内容は国の資料等をご確認ください。